

ISHIKAWA DESIGN AWARD

令和元年度 石川デザイン賞

2019

令和元年度

石川デザイン賞 表彰実施要領

■ 目 的

石川県内のデザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を評価、表彰することにより、県民へデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図ることを目的とする。

■ 表彰対象

これまで石川県のデザインの向上、普及に著しく貢献している個人及び企業、団体を対象とする。

■ 表彰対象者の選考

①デザイン関係団体等の代表で構成する「石川デザイン賞選考委員会」において選考し、決定する。

②選考にあたっては、

- ・デザイン界において顕著な活動を実践したもの
- ・社会、教育に対してデザインのより一層の振興を図ったもの
- ・デザインに対して深い理解を示し、商品開発や販売促進、さらには地域・社会・環境等の課題解決にデザインを効果的に活用したものなどの観点から審査する。

■ 表彰

石川デザイン賞 3件以内 ※賞状と副賞を授与する。

表彰は、石川県知事と公益財団法人石川県デザインセンター理事長の連名による。

■ 石川デザイン賞選考委員名簿

委 員 長	川本敦久	金沢卯辰山工芸工房館長
副委員長	村中 稔	金沢美術工芸大学教授
委 員	飴谷義博	(一社)石川県繊維協会専務理事
〃	井上 淳	金沢市経済局営業戦略部長
〃	亀田重太郎	石川県インテリアデザイン協会理事長
〃	新谷隆二	石川県工業試験場繊維生活部長
〃	東田修一	石川県ビジュアルデザイン協会理事長
〃	長岡満寿夫	(一社)石川県建築士事務所協会理事
〃	中富大輔	石川県商工労働部産業政策課長
〃	西田哲次	金沢商工会議所常務理事
〃	松本いづみ	石川県クラフトデザイン協会理事長
〃	水野一郎	建築家、金沢工業大学教育支援機構顧問
〃	山本洋志	石川県プロダクトデザイン協会会長

公益財団法人 石川県デザインセンター

石川県金沢市鞍月2丁目20番地（〒920-8203）
石川県地場産業振興センター新館4階
TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242
ホームページ <http://www.design-ishikawa.jp>

デザインの力。
人を動かし、
時代を創る。

ISHIKAWA DESIGN AWARD

◎受賞者・企業の紹介



やまだのりこ
あとりいえ。代表



有限会社 チャンネルアッシュ
代表取締役 越原裕幹



株式会社 六星
代表取締役 軽部英俊

受賞理由

町家の改修を得意とし、設計だけにとどまらず、改修後の町家の活用提案を積極的に行っている。また町家をきれいに掃除して見送る、またはつないでいく「おくりいえプロジェクト」を県内外で50回以上開催するなど、広く町家の魅力を伝えている。

やまだのりこ氏は大学を卒業後、金沢市内の建築事務所で12年間、設計に携わり、2010年に独立しました。1950年の建築基準法施行より前に建てられた、伝統的な木造住宅の総称である「町家」の改修を得意とし、設計のほか改修後の活用まで含めた提案を行っています。

第41回金沢都市美文化賞を受賞した「高木屋金物店」では、店舗兼住宅を約100年前の建築当時の姿に戻すリニューアルを手がけ、吹き抜け梁のライトアップや漆喰塗りの白壁の再生、店舗のサッシを木の格子戸に変えるなど面目を一新しました。

取扱商品の面でも、売れ行きを見て従来品を1割以下に絞り、代わりに消費者の感性にマッチするナベや包丁のほか、鉄瓶といった新たなアイテムを提案、売り上げ増につなげています。商品陳列台には蔵で眠っていた長持やタンスなどを使い、店内は洒落たセレクトショップの雰囲気が漂います。

やまだのりこ氏が町家にひかれたのは大学時代で、「天井や床に天然木が使われ、建具や照明にも職人の技が息づき魅力を感じた」と言います。この原体験から、取り壊される町家の最後を有志で掃除して送る「おくりいえプロジェクト」も主宰し、かかわった物件は2009年から県内外で53軒に上ります。

面白いことに、同プロジェクトが町家への関心呼びさまし、53軒の約9割が再生利用されています。ちなみに、震災を免れた城下町金沢には今も約6000軒の町家が残ります。10年ほど前までは年間約270軒が取り壊されていましたが、近年は約100軒まで減っており、「これからも町家の良さを地域や世代を超えて伝えていきたい」と話します。



左：柔らかな明かりに照らし出された高木屋金物店の外観



右：おくりいえプロジェクトの掃除風景

DATA

1977 年石川県加賀市生まれ、金沢工業大学工学部建築学科卒業。建築事務所勤務を経て、2010 年「あとりいえ。」設立。金沢工業大学、金沢美術工芸大学で非常勤講師も務める。14 年「新田邸」、19 年「高木屋金物店」で金沢都市美文化賞受賞

受賞理由

遊び心あふれるオリジナルデザインのTシャツブランド OJICO(オジコ) を展開するとともに、湘南モノレールや伊藤園などの多くの連携企画を手掛けている。また、品質にもこだわり、生地から縫製まで県内繊維企業の協力を得ており、産業界への貢献度も高い。

チャンネルアッシュでは「楽しくないTシャツなんて、欲しくない」をコンセプトに、「OJICO」「OJI子」「BLACK OJICO」「MUJICO」の4ブランドを展開し、石川発のTシャツを年間で約30万枚売り上げています。代表ブランドである OJICO の商品は、どれも思わずくすりと笑ってしまいそうな遊び心あふれたデザインで、老若男女を問わず幅広い層から人気を集めています。

Tシャツに使用する生地はすべて石川県産です。縫製も全商品の40%くらいを県内企業に発注しています。洗濯を200回以上しても着られる堅牢性は、県内繊維産業の厚みと底力を示すもので、同社の越原社長が県内生産にこだわる理由となっています。

一方、商品力の要となるデザインは、越原社長と3人の社内デザイナー、関西在住の絵本作家の計5人で練り上げています。「遊び心」の引き出しを増やすため、営業・販売スタッフも交えて海外研修旅行を年8回実施するなど、会社の制度としてインプットの機会を数多く設けている点は、社員の資質を重視する同社ならではの取り組みです。こうして磨いたデザイン性の高さが評価され、大手飲料メーカーや鉄道会社、プロ野球球団、出版社からノベルティ制作などのコラボレーションを依頼される機会も少なくありません。

このほか、百貨店の催事場などで1週間程度のポップアップストアを、年間で400回展開する点も同社の特徴です。直営店舗を6店しか持たない同社にとって、ポップアップストアは販売の最前線として重要な役割を担っているとともに、全国各地の方々にブランドを知ってもらうことが、ネット販売の売上にもつながっています。



左：OJICO東京スカイツリータウン・ソラマチ店

右：北陸新幹線をモチーフにした OJICOブランドの半袖Tシャツ



DATA

■ 代表者	越原裕幹	■ 売上高	10億円
■ 所在地	金沢市新保本1-436-5	■ 主な業務	Tシャツ、子供向け衣類の製造・販売
■ 創業	2002年9月		
■ 従業員	50人（パート・アルバイト含む）		

受賞理由

県内農業法人の草分け的存在であり、農業の6次産業化に向けて、米の請負耕作や自社工場の整備、直売店の経営などを展開している。和菓子ブランド、お土産ブランドの展開や複数の直売店の運営で、デザインを効果的に活用している。

六星は、県内はもちろん、国内でも指折りの6次産業化のトップランナーです。同社の直売店では、米や野菜のほか、自社工場で製造した和菓子や惣菜、弁当などがずらりと並べられ、土日・平日を問わず、連日大勢の人でにぎわっています。生鮮品と比べて付加価値の高い加工品を販売し、経営を安定させることは、同社の原点である農地の継承、農業の発展にもつながります。高齢化や後継者不足によって、農作業ができなくなった農家から耕作を請け負う水田の面積は、今では県下最大規模となる約160ヘクタールにまで広がりました。

自社商品のブランドとしては米と餅を主体とする「六星」に加え、北陸新幹線開業に合わせて立ち上げた和菓子ブランド「豆餅すゝめ」、ギフト用ブランド「お福分け」があります。自家用としての購入がメインの「六星」の商品には素朴さや自然をイメージさせるロゴを、一方、「お福分け」の商品にはおしゃれで洗練されたパッケージを採用するなど、ターゲットや商品の特性を考慮し、デザインを多層的に展開しています。また、松任本店のほか、金沢市内で営業する3つの直売店も、立地や来店客層に合わせて、内外装の意匠やネーミング、商品ラインアップを工夫しています。

軽部社長が決して忘れてはならない理念と強調するのが「コミュニケーション精神」です。その根底にあるのは、企業の永續のため、いい情報も悪い情報も、消費者と双方向でやりとりすることで、共感と信頼の絆を築きたいとの思いです。これからも、デザインの力も積極的に活用しながらコミュニケーションを深め、農業をベースに、安全安心でおいしい食品を提供する考えです。



左：六星の加工品の代表格である餅。塩味や紅白セットなど郷土の伝統を守り、広く伝えている



右：金沢駅構内にある「すゝめ金沢百番街店」。六星の農産物を味わってもらおうと奥にはカフェも併設する

DATA

■ 代表者	軽部英俊	■ 売上高	12.8億円
■ 所在地	白山市橋爪町104番地	■ 主な業務	農産物の生産・加工・販売、飲食業
■ 創業	1977年6月		
■ 従業員	110人（パート・アルバイト含む）		

◎ ご挨拶

デザインは、時代を切り開く新しい価値創造のプロセスとして、商品開発や広告はもとより、企業戦略や都市景観、イベント、地域活性化など多様な分野で、その力を発揮しています。

ますます創造性が必要とされる今日において、より一層社会に対して、デザインの浸透を図っていくことが重要であると考えます。

石川デザイン賞は、こうしたデザインの役割を広く県民各層にご理解いただくために、デザインの普及・発展やデザイン業界の活性化に著しく貢献した個人及び企業、団体を顕彰するものです。

選考に際しては、デザインに対する理解の深さ、リーダーシップ、社会への貢献度、商品開発や販売促進においてデザインを効果的に活用したもの、そしてデザイン業界において顕著な活動をしたものを対象にしています。

令和元年度は、次の3者が受賞しました。ご一読いただき、デザインの有効活用の一助になれば幸いです。

公益財団法人 石川県デザインセンター

理事長

大場吉美